



ミモザ



ユーカリ
ハートリーフ



イタリアンポピー



花桃

京都市伏見区桃山は、江戸時代初期から椿や桃の栽培が続く歴史ある花産地です。都市化が進むこの地域ですが、現在でも桃山丘陵や巨椋池干拓地で、農家5戸が年間50品目以上の四季折々の花を栽培しています。産地の主力品目のひとつである「おどり葉ぼたん」は、昭和55年頃から栽培が始まりました。就農当初から栽培されてきた吉川正幸さんは、今では「おどり葉ぼたん」の篤農家として高い評価を受けておられます。最近では、国際女性デーの代表花である「ミモザ」や大きな花弁が特徴の「イタリアンポピー」の栽培に取り組まれ、新たな花きの生産にも尽力されています。

昨年、御子息の耕平さんが就農され、花木部門の栽培管理を任されています。11月の洛南地域秋季農産物品評会では、耕平さんが出品された「ユーカリハートリーフ」が見事に「京都市長賞」を受賞しました。桃山の花栽培の伝統は、若い世代にしっかり受け継がれています。

令和4年度普及センターの調査研究活動を御紹介します！

普及センターでは、技術的観点から検討が必要と考えた農業現場の課題や潜在的な問題について普及指導計画に掲げ、農家のみなさんと協力して調査・研究・実証等に取り組んでいます。

1 ナス青枯病及びアブラナ科野菜根こぶ病に対する転炉スラグの効果確認

アブラナ科野菜の根こぶ病は、酸性土壌（土壌pH 6以下）で発病が激しく、pH7.2以上では抑制される傾向があります。一方、細菌による病気のほとんどはpHが高いと発病しやすい傾向にありますが、「東北地方では、トマトの青枯病は特異的にpHが高いと発病が抑制される」という国の試験場のデータがあります。

このような知見に基づき、土壌の酸性改良効果の持続が期待できる「転炉スラグ」に着目し、ナスの青枯病及びアブラナ科野菜の根こぶ病に対する転炉スラグの施用効果を確認する現地試験を行いました。

【転炉スラグとは】

転炉スラグは、製鉄所で鋼を製造するための転炉で副生成される資材であり、主な成分として石灰約40%、ケイ素17%、酸化鉄約13%のほか、マンガンやホウ素等の微量元素も多く含んでいます。土壌が酸性のほ場に、転炉スラグを大量に施用（10a当たり1t以上）することで、土壌を中性（pH 7）以上に矯正でき、その効果は長期間持続します。

技術のポイント！



（1）現地試験の結果

転炉スラグを10a当たり1t施用したほ場では、ナス青枯病の発生を収穫後半まで「1割未満」に抑制できました（表）。なお、同ほ場で栽培したアブラナ科野菜については、抵抗性品種を使用したブロッコリーでは、根こぶ病の影響による生育不良や減収などの実害はみられませんでした。抵抗性品種を使用しなかったミニハクサイでは、根こぶ病が多発しました。この現象は、栽培ほ場の土壌pHが6.5と酸度矯正の目標値（pH7.2）を下回っていたことが要因と考えられました。しかし、根こぶ病のため、アブラナ科野菜がほとんど収穫できなかった昨年と比べて、転炉スラグを導入した本年は抵抗性品種を使用すれば、アブラナ科野菜が栽培できるレベルまで土壌条件が改善したことが伺えました。

表 ナス青枯病試験の結果

栽培株数 (本)	発病株数 (本)	発病株率 (%)
114	10	8.8

調査日：2022年10月20日

調査ほ場：向日市の青枯病多発ほ場
(前作はアブラナ科野菜)

（2）本防除技術の注意点について

土壌pHが高くなると、ナスでは半身萎凋病、アブラナ科野菜では「根くびれ病」、ジャガイモでは「そうか病」等の発生を助長するため、注意が必要です。なお、ナス半身萎凋病は「トナシム台木の活用」や右記の「ブロッコリー輪作」により発生を抑制できます。転炉スラグの施用をご検討の方は、普及センターまでご相談ください。

農作業事故にご注意！！～あなたの大切なお体を守るために～

今年度、当普及センター管内において4件の農作業事故が発生しました。

エンジンを停止せずに、ロータリーやキャタピラ等に絡まった草等を取り除こうとして機械に手を巻き込まれるケースがみられました。

「エンジンをいちいち止めなくても、いつも大丈夫だから今日も大丈夫」と思うかもしれませんが、しかし、もう一度気を引き締めていただき、エンジンを必ず止めてから作業をするようにしましょう。



あなたの地域から広がる農作業安全

2 ブロッコリー輪作によるナスの半身萎凋病防除効果の検証

ナスは、休作年数が短いほ場では、6～7月及び9月中下旬に半身萎凋病による収量低下が問題となっています。有効な対策として土壌消毒が一般的ですが、近隣住宅地への配慮や環境にやさしい農業を実践する観点から、耕種的な防除技術として「ナスの前作にブロッコリーを栽培して収穫後にすき込むことで、半身萎凋病の発病を抑制する」現地試験を行いました。

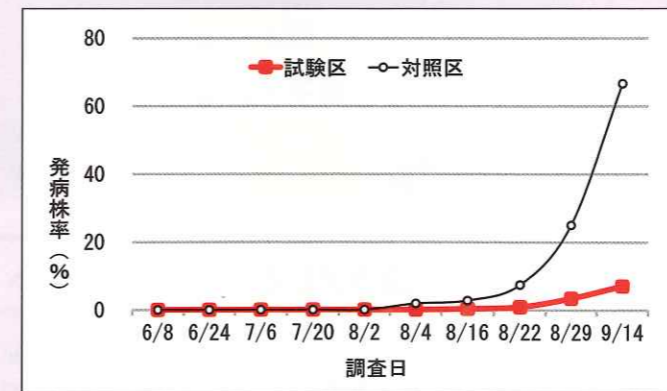
【ブロッコリー輪作によるナス半身萎凋病発病抑制のしくみ】 技術のポイント！



ナス半身萎凋病の病原菌は、土壌中に存在する微小菌核が植物の根から感染して株を萎凋させます。その後、地上部で再び微小菌核を形成し、植物残渣とともに土壌に残るため、次作での発病につながります。本病原菌はブロッコリーの根に感染しますが、花蕾部までは進展できないことから、地上部で微小菌核が形成されず、土壌に残る微小菌核が減少するため、次作のナスでは発病が少なくなります。

（1）現地試験の結果

水稲収穫後のほ場（3年前にナス栽培）に、ブロッコリーを栽培する畝を試験区、サニーレタスを栽培する畝を対照区とし、それぞれ収穫後に茎や根を3月中旬にすき込み、4月下旬にナスを定植しました（両区ともトルバム台木を使用）。6～9月に半身萎凋病の発病株率を調査した結果、9月中旬時点で、対照区では65%以上が発病したのに対し、試験区では約7%の発病にとどまりました（図）。なお、試験区は対照区に比べると初発時期が遅く、発病株の拡大が緩やかでした（写真）。



【図】ナス半身萎凋病の発病株率の推移



【写真】現地試験ほ場におけるナス半身萎凋病の発生状況（8月29日時点）

対照区（手前側）の発病株率 約25%
試験区（奥側）の発病株率 約3%

（2）本防除技術の注意点について

ほ場の汚染程度が高い場合（発病株率30%以上）、本防除技術は効果が劣ることが確認されていますので、ナス栽培ほ場では①休作年数を長くする、②排水性を改善する、③罹病残渣を持ち出すなどにより、事前に病害の発生しにくい環境づくりを行うことが重要です。

農業基礎講座の紹介

- 当普及センターでは、就農して間もない方や就農に向けて研修している方等を対象に、農業生産に必要な栽培、病害虫防除、土壌・肥料、農業機械の利用から流通・販売まで基礎的な知識の習得を支援するため、農業基礎講座を開催しています。
- 令和5年度は、6月頃からの開催を計画しておりますので、御家族やお知り合い、就農に向けて研修されている方等へ参加を呼びかけていただければ幸いです。（開催日程や内容については、令和5年4月頃に決定します）。

農薬を適正に使用しましょう

地域で大活躍 「頼れる農業士さん」

ないとう ゆうき
内藤 勇貴さん
(京都市伏見区)

内藤勇貴さんは、伏見区三栖町で就農されて11年になります。

現在では、5年前に始めたイチゴのハウス栽培が農業経営の中心となっています。12～6月に朝採りイチゴを自宅前で直売され、「新鮮・上質・美味」とクチコミでお客様が増えて大変好評です。また、イチゴの販売がない時期は、キュウリや小カブを露地で栽培し市場へ出荷されています。

就農当初は慣行栽培を基本にされていましたが、「京のこだわり旬野菜の会」に所属して技術研鑽に努められ、今では化学農薬をほとんど使わない環境にやさしい栽培を実践されています。

令和4年度には、「京都乙訓地域農業士会」のSOFIX（土壌肥沃土指標：微生物に着目した土壌診断技術）研修会の開催に尽力され、普及センター主催の農業基礎講座では新規就農者交流会のアドバイザーを務めるなど、農業者の技術交流や農業後継者の育成にも活躍されています。



今年度に認定された農業士さん

よろしくお願ひします。

<指導農業士>



おくだ やすひこ
奥田 容彦さん
(京都市伏見区)

<指導農業士>



たかはし やすかず
高橋 靖和さん
(長岡京市)

<指導農業士>



こやま やすひろ
小山 保博さん
(長岡京市)

今年度で退任される農業士さん

大変お世話になりました。

<指導農業士>

むろ	たけひこ
室	武彦さん(京都市右京区)
つじい	ながお
辻井	永雄さん(京都市伏見区)
こばやし	しげる
小林	茂さん(長岡京市)
もりた	ひでこ
森田	秀子さん(長岡京市)

令和4年度 農の匠(京都府農山漁村伝承優秀技能認定)の紹介

「京都大原の赤しそ栽培」

たくち よしぞう
田口 義藏さん(京都市左京区)

田口さんは、赤しその自家採種を繰り返し行う中で香り高い株を選抜され、地域の漬物業者と契約栽培をされています。地理的条件等により他所では同品質の赤しその栽培は困難であることから、田口さんは自家採種した種を地域の農家に提供し、赤しそ栽培の技能を積極的に伝承されています。



第6回 京のプレミアム米コンテスト

応募点数173点の中から、山本武宏さん(京都市伏見区:写真左)のヒノヒカリが「最高金賞」、田中良和さん(京都市右京区:写真右)のコシヒカリが「入賞」に選ばれました。



発行 京都府京都乙訓農業改良普及センター

〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺団子田町15 TEL 075-315-2906 FAX 075-315-2909
mail: kyoto-nokai@pref.kyoto.lg.jp HP: <http://www.pref.kyoto.jp/kyotootokuni-f/index.html>



QRコード